

フランス・ジヤパン財団 ヤングリーダープログラム

山本左近の活動はこちら



H.P.

5月7日からフランスへ。今回の渡仏の理由は、**仏日財団が主催し、初めての試みとなるヤングリーダープログラム**（以下、YLP）に招待され、渡仏しました。

仏日財団は、仏・アジア財団の後援のもと、フランスと日本の関係を強化するため、支部として今年新たに設立されました。フランスは12年前からアジアとの関係強化のため中国とYLPを開催してきましたが、世界情勢の変化を受けて改めて日本との架け橋を作ることとを目的に今回のプログラムを開催しました。経済、外交、イノベーション、文化などの主要分野で新しい形態の協力を促進するため、さまざまな分野で活躍する仏日の若いリーダー27名が参加しました。

両国のヤングリーダー間の相乗効果を生み出し、相互理解を深めることが期待されています。フランス滞在中には、大使館や美術館、欧州議会等の視察、また政治家、官僚、アートや食文化関係者など幅広い皆さんとのパネルディスカッションなど多くの議論に参加しました。またパリだけでなく、ドイツとの歴

史的関係の深いストラスブールにも訪れました。

幅広い分野の方達と「政治、経済、外交、安全保障、文化、音楽、スポーツ、食・農業、医療、AI・量子、歴史など」について議論し、話題にならなかったテーマを見つけることが難しいほど充実した5日間でした。参加者の様々な専門性が交錯することにより、議論が深まりました。

まず初日は、グループディスカッションを行い、リーダーとは何かについて掘りを行いました。その後、外務省アジア・オセアニア局長のベノワ・ギデ氏から仏日を含むフランスとアジアの関係性について講演。フランスにおけるウクライナ戦争の位置付けと影響、明確に中国を脅威と捉えた対中戦略の方向性の変更、経済安保、サイバーセキュリティ、核共有、台湾有事についてなど日本の議論と非常に重なる部分もありました。激変する世界情勢の中で、17世紀から続く日仏関係の価値を改めて認識・共有し、国同士の連携をさらに強化する必要性について議論しました。

この日は奇しくも5月8日。

第二次世界大戦の欧州戦における終戦日で、彼らはそれを戦勝記念日と呼びます。凱旋門広場において80周年の戦勝記念式典が行われ、我々も出席。仏マクロン大統領は演説において、「ロシアによるウクライナ侵略が4年目に突入する中、第二次世界大戦後の欧州における恒久的平和という考えは幻想に過ぎなかった。欧州では戦争の亡霊が戻ってきて、帝国主義と全体主義的な振る舞いが復活し、国家の権利が再び踏みじられており、常に平和を守る必要性がある。」と語りました。

日本としても悲惨な戦争を二度と繰り返さない決意と、平和を守るための努力をしなくてはなりません。一か国だけでなく、連携していくことによって抑止力を高めていくことが重要です。自身の国際経験や政治の場における経験、また今回のYLPの出会いを活かし、日仏の架け橋となり、日本の国力の強化に努めていきたいと思えます。

前衆議院議員



不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

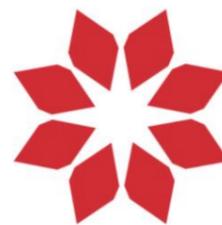
フランス・ジャパン財団とは



FONDATION
FRANCE-ASIE

フランス・アジア財団の活動は、10年以上。まず、フランス・中国財団が設立されました。また2年前にはインドでもヤングリーダープログラムが開催され、のべ6,000人以上のフランスとアジアの架け橋として尽力してきました。

フランス・日本財団は、今年新しく、フランス・アジア財団の後援を受けて設立されました。フランスと日本の絆の強化に尽力し、両国の若手リーダー間の相乗効果を生み出し、相互理解を深める取り組みを促進することを使命としています。



FRANCE JAPAN
FOUNDATION



フランス外務省アジア・オセアニア局長ベノワ・ギデ氏による講演
フランスにおけるウクライナ戦争の位置付けと影響。

中国を脅威と捉えた対中戦略の方向性の変更、経済安全保障、サイバーセキュリティ、核共有、台湾有事についてなど日本の議論と非常に重なる部分もありました。

文科政務官の時に取り組んだ、量子コンピューターなど科学技術分野での連携も不可欠。フランスや欧州と日本との連携強化に繋がっていきたいです。また欧州議会との関係やレギュレーションに関して議論を交わしました。



戦勝記念日の80周年式典に出席。

日本人として様々な思いが巡りました。17世紀以降、フランスとの関係は、いい時ばかりでなかったのも事実です。しかしながら、未来の平和に向けて、二国間の連携は不可欠です。

今年に入り、海上自衛隊と米仏海軍はフィリピン海で共同訓練「パシフィック・ステラー」を実施。またフランス軍の軍艦が、沖縄県うるま市のアメリカ軍基地に入港しました。

このようにフランス軍は、海洋進出を強める中国を念頭にインド太平洋地域への関与を強めています。仏軍が太平洋に派遣されるのは1968年以来、57年ぶり。



ストラスブールにある、欧州議会を視察

ストラスブールは、フランスとドイツの国境に近いアルザス地方に位置し、歴史的に両国間で領土争いが続いた場所。第二次世界大戦後、欧州の大国である両国の和解の舞台となり、ヨーロッパ統合の象徴的な存在として注目されました。

欧州議会がこの地に置かれていることにはこのような歴史的背景があります。

ファビエンヌ・ケラー欧州議会議員（元ストラスブール市長）の案内で欧州議会を視察。

その後、ケラー議員から欧州議会での活動や現状をお話しいただき、質疑応答が行いました。